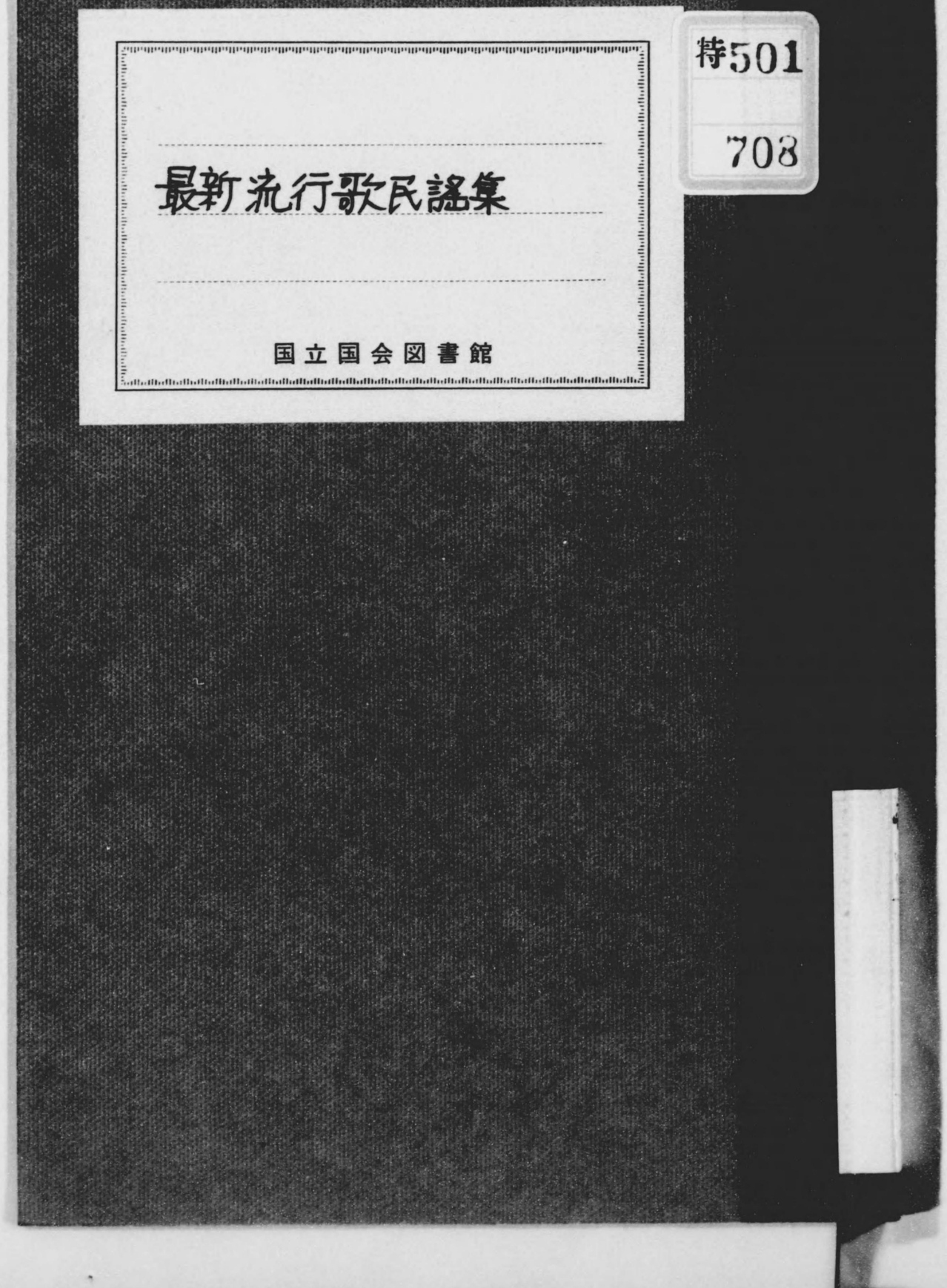


0034322000

0034322-000

特５０１－７０８

最新流行歌民謡集

〔作家同盟山形支部準備会〕

昭和８．９

AGC

弾 847
永久保存

848

特50
708

最新流行歌民謡集

反戦内容不良ナリ

国会図書館
54.3.-9
図書館蔵書

小説 愛国信濃号

二

「ミキ、さあ おべえ」

おっ母あが言った。あれは茂が乳を飲んでる間にと思って、宿題をやっ始めた。もう少しで算術が解けそうなのでおれは返じをしないで鉛筆を動かしてねた。

「ミキ、餓鬼あ、ふんで返事しやがらねんだ。早やく茂とこあぶって行け。仕事ぬきがしんだあ。馬鹿ッ！」とこんどはおっ母あは大声で怒鳴った。

「ミキ、餓鬼あ、ふんで返事しやがらねんだ。早やく茂とこあぶって行け。仕事ぬきがしんだあ。馬鹿ッ！」とこんどはおっ母あは大声で怒鳴った。

おれが勉強してるのに、おっ母あはどうしてあんなにあこるのだろう。おれはシブシブ立ちあがると、あこった板の縁をしてあっ母アのところへ行った。

「ソ、ソ、早くあべえ。おっ母あは仕がしねえがしれー！」

何かに追はれてでも居るようにおっ母あはあわてゝおれの背中へ茂をおぶした。茂はいま乳を腹いっぱい飲ったので、きげんよく笑ってるけれども、今年四つにもなるキクがそばで「あマンマ、よう、あマンマ」と言ってあっ母あを困らして居る。

「あマンマあんがねえわ。喰べたがってばか」

70W10170

三

「ミキ、さっさとあっちへ遊びに行け。」

とおっ母あはキクを叱りつけた。

キクはすぐ眼を空うすのだっさらして味噌をつけた握り飯をほしがる。でも今日おきん家の田は空っぽのだろう。おれだって腹が空いてあるのだけれど——。

「ミキ・それから米屋に行ってこうし あッ姐あはそう言って戸棚からゼニを出して来た。おれは光る五十銭玉を一つ受けとって、布呂敷をもった。それからがツ〈いってあるキクをつれて あっちへ行けさ。お菓子買ってくれるわ。いーッぱい——」といってダマかしながら手をひいて出かけた。

米屋は隣の部落にある。おれは買った米を布呂敷に包んで、並木をブラ下って田甫道を歸って来た。人があっちこっちの田で、田の草をとってあるっ向ふの電柱のそばの田は、正夫のところの田だ。そこへ、おれのおっ母あも日傘に行ってあるのだ。おっ母あのマンゲの姿が、あをい稲の葉とすれ〈に動いて見えた。

「オカレ、姉エ、オカレ」とキクがおれを困らし出した。キクは腹が空って困ってあるのだ。おれらは此の頃、麥と粉のおマンマばかり喰って居る。だからすぐ腹が空るのだ。——白い国いおマンマを腹いっぱい喰べたいなあ、とおれはつく〈思った。嘆を呑んだ。

・キク泣くな。おれ、学校学へれば製糸場へ女工に行くから、さうしたらうんと働らいて歸るときにうまいお菓子をどっさり買ってきてやるわ、おれはそのときのキクの姿を脳に描い

て、そんふことを考へた。でも繋留場ではいま仂らいても償銀をよこさないのださうだ。

——遠い町の空に黒い煙を上げてゐる製糸工場の煙突を見ながら、おれはホゝと赤ん坊に勝が立つて悲しくなつた。

「オイ、水飲めさ。んまいど」

おれは働らの小川の澄んだ水を手にすくつて飲んだ。腹に沁み込んだ。キクにも飲ました。——もう夜は背中で眠り込んでゐる。

端づれの馬頭観世音のところまで来ると、向ふからカツヰが来た。おれを見てニコニコしてゐる。

「カツヰ、何處へ行く?」

「四へ。——四の軒とまんだあ」

「ふうん。儲かるか。」とおれは感心した様に言つた。

その時、空の方でうるさい音がした。グウーン、飛行機だ。見あげて、すがすと向うの山の雲の中から小さく飛行機が姿をあらはしてきた。

「あ、あつこ」と指さした。

「あーれ」とカツヰがいつた。

おれは働らの小川の澄んだ水を手にすくつて飲んだ。腹に沁み込んだ。キクにも飲ました。——もう夜は背中で眠り込んでゐる。

端づれの馬頭観世音のところまで来ると、向ふからカツヰが来た。おれを見てニコニコしてゐる。

「カツヰ、何處へ行く?」

「四へ。——四の軒とまんだあ」

「ふうん。儲かるか。」とおれは感心した様に言つた。

その時、空の方でうるさい音がした。グウーン、飛行機だ。見あげて、すがすと向うの山の雲の中から小さく飛行機が姿をあらはしてきた。

「あ、あつこ」と指さした。

「あーれ」とカツヰがいつた。

おれは働らの小川の澄んだ水を手にすくつて飲んだ。腹に沁み込んだ。キクにも飲ました。——もう夜は背中で眠り込んでゐる。

端づれの馬頭観世音のところまで来ると、向ふからカツヰが来た。おれを見てニコニコしてゐる。

「カツヰ、何處へ行く?」

「四へ。——四の軒とまんだあ」

「ふうん。儲かるか。」とおれは感心した様に言つた。

その時、空の方でうるさい音がした。グウーン、飛行機だ。見あげて、すがすと向うの山の雲の中から小さく飛行機が姿をあらはしてきた。

「あ、あつこ」と指さした。

「あーれ」とカツヰがいつた。

おれは働らの小川の澄んだ水を手にすくつて飲んだ。腹に沁み込んだ。キクにも飲ました。——もう夜は背中で眠り込んでゐる。

端づれの馬頭観世音のところまで来ると、向ふからカツヰが来た。おれを見てニコニコしてゐる。

「カツヰ、何處へ行く?」

「四へ。——四の軒とまんだあ」

「ふうん。儲かるか。」とおれは感心した様に言つた。

その時、空の方でうるさい音がした。グウーン、飛行機だ。見あげて、すがすと向うの山の雲の中から小さく飛行機が姿をあらはしてきた。

「あ、あつこ」と指さした。

「あーれ」とカツヰがいつた。

げて、こつちへむつてきてゐた。

「ミキ、カツヰ!」と正まはどうだといふようつ顔つきで、まるで自分の飛行機でゞもあるように威張つていつた。

「あれ、愛口信濃号だつて、お前の飛行機かや?」

カツヰは聞けずに小馬鹿にするようにいつた。

「ミキ、カツヰ!」と正まはどうだといふようつ顔つきで、まるで自分の飛行機でゞもあるように威張つていつた。

「あれ、愛口信濃号だつて、お前の飛行機かや?」

カツヰは聞けずに小馬鹿にするようにいつた。

「ミキ、カツヰ!」と正まはどうだといふようつ顔つきで、まるで自分の飛行機でゞもあるように威張つていつた。

「あれ、愛口信濃号だつて、お前の飛行機かや?」

カツヰは聞けずに小馬鹿にするようにいつた。

「うん、おれの飛行村だあ。馬鹿アマ。おれだってあの飛行機に十銭寄附したんだぉーカツキヤミキ、寄附レねえだねか。ゼニ寄附レねへものぶんが飛行村見るか。馬鹿！」

正夫はそう言って、向ふへ走って行った。

——学校で出来ねえくせレやがって威張ってばかりみやがる。いまに中学へ出るんだと言ってみるけれど、きっとあんな野郎落れするだろう。

でもおれも口惜しい。——愛口信濃寺へ寄附するゼニを五銭以上揃ってこいと学校の先生にいはれたから、おれはその時おツ母あにいつたのだ。おツ母あは父にいつた。けれど父は、「青年団や在郷軍人の歓迎会にゼニよこせといやがる三度も三度もやかって、ゼニよこせといやがる」し、又学校でもよこせったって、そんなとこへ出すゼニねえと出てくれなかつた。それでもおれは先生に叱られたり、友達に笑れたりすればだと思つて、五銭くれと言つてせがんだ。

とうとうあれは泣いて、くれないから学校へ人かいかねえといひ出した。すると父は急に立ち上がつて、いきかりみれの頬ぺたをひつぱたいた。さうレて、行くと、行くと承知レねえど、と言つてあれの鞄をとりあげてなぐりつけた。おツ母あがあわてつ父に説つて、鞄を拾ふとおれに渡した。さうレて、学校おくれる、早やく行けといつておれを押レ出すようにした。——あれは泣きぢやくりかから家を出て行つた。

話い通りまでくると、おツ母あが煎屋の方から田の畔づたいにおれを追つかけてきた。

「ミキーほれ——」といつて、おツ母あはおれに五銭玉をにぎらせようとレた。おツ母あは新屋から五銭借りて来たのだ。そう思ふとふとおれはいつそう悲しくかつて、「いらねえ」といつた。おれは地べたに五銭玉を投げ出した。おツ母あの手をふりきるやうにレて歩いた。愛口信濃寺ふんで、「憎い、憎い、さう思って、おれは泣きながら走つた。

それで、おれは寄附レかかつたのだ。カツ井の家もおれの家みたいに貧乏だから、カツイも寄附出来かつたのだろう。

おれはそのときのことを思ひ出すと悲レくふつた。おツ母あを見たっおツ母あは正まの家の田の畔で、まだいつレんに飛行機を見てゐる。おれは泣きたくかつた。カツ井がおれの頼を不思議そうに見つめた。

「おい、カツ井、あの飛行村、いまに支那に攻めに行くんかあんとおれはゴマ化した。

「ウン、きっと上海へでも行くんだあ」とカツ井はいつた。

ふとカツ井の顔に暗イ影がさレた。——あそうだ。カツ井の兄ちやんは兵隊にとられて上海に行つてみるのだ。だからカツ井は考へ込んだのだ。とおれは気がついた。

「カツ井の兄ちやん上海に行つてるんだかあ。——戦死するかも知んねえわ。それであツ母あは毎日泣いてるわあ。

「うん。おれの兄ちやん、戦死するかも知んねえわ。それであツ母あは毎日泣いてるわあ。

仕事はきつとも辛くねえ。ぜニ取れねえニレ、それで、あの、あれ、あの学校だって雑巾も持つて行かれねえんだお」

かついは恥づかしそうに、ちよつと笑つた。それを聞くとおれはまた泣きたくかつた。それで、おれはわざと元気よく道の小石を拾ひあげていつた。

「あんな飛行機、ちきしよう、追ひぱらつちまえ」

おれは飛行機目がけて石を投げた。——信濃号はそのときすでに寄附金感謝新聞飛行をすませて、向かの白い雲の彼方に消え去らうとしてゐた。だんだん小さくかつて行つた。

「あれ、逃げていくカ」

カツ井が叫つた。おれとカツイは、あはははと笑つた。

（おわり）

皆さん。工場で働いてゐる皆さん。町で自動車のごみをあびながら、鶴はしを振りながら、車をひく皆さん。

皆さんは此の小説を読んで何を考へられましたか？もつともこれは愛日村山秋号の小説ですふく信濃号の小説です。でもそんな事は大したことではありません。

私達労働者・農民は、ミキやカツオの家程は貧乏でふくとも似たものです。

そして一日のかぼそい生活から山秋号の寄附を強制的にとられました。それを在郷軍人会、青年団、学校から二重三重にです。女工さん達はニセ銭から天引きされたのもあるそうです。

戦争で不景気はふきとばされる

——私達の生活は戦争があきてから益々悪くなつた。——

一、戦争は私達を苦しめる！

「満州は日本の生命線だ」「満州の権益を守れ」「満州が日本のものにかれば景気が直る」——戦争がはじまつてから三年にかりました。満州は日本のものにかれましたが、私達はますます苦しくなる一方です。

物価は何かにもベラ棒に高くかつてきました。生活費は毎年がさんでできてゐます。それだのに労働者の賃銀はあがらないどころか、かへつて安くかつてゐます。これでは、たださへ苦しい労働者がくらして行けなくかりますゝ味噌もつきません。今日本には三百万人からの失業者があふれかつてゐます。そして益々ふえる一方です。

「生命線は日本のものにかりました」「権益」は守られました。日本は満州をとりました。だが皆さん！不景気は直つたでしようか？私たちの生活は、少しでもよくかつたでしようか？冗談じやありません。私たち生活は底をついてゐるのに米やその他の農産物はチツトモ高くかり

ばたんの小作料はギュー搾られます。
税金は下らぬどころか、来年あたりは増税にふりそうです。今年の肥料ふんが去年の四割も高くふってるし、来年はまだ高くかあでしょう。こんなアンバイで一年中血の汗で働いても半年分の飯米さへ残りません。殖るのは高い利足のつく借金だけです。

このまゝで行つたら私達一労働者や半農民は四郎二三年の中、餓死するばかりです。景気は良くなるばかりですし、私達の生活もだから楽やかにはならずまつてからも下さかをスベリ落ちて居るだけです。満州が日本のものにかつた今日です。

皆さん。それにどうです。私たちの渡つた満州は。

どうでしょう。皆さんの家、社会に押し潰されてしまいます。

二私達は考へ方くてはなりません。

皆さん！酒さんは新聞やラヂオ・雑誌等で、おもいは工場の社長や重役の説教で、めしは農家、青年団・青訓・在郷軍人会等々いたるところで聞かされたでしょう。

「国家非常時だのみんな苦しいのは我慢しろくちやぶらんの満州は日本の生命線だ。我々は何にかへても満州の権益を守らなくてはならん。東洋平和のためだ。徒仁のためだ。満州に居る兵士は我々八千万同胞のために犠牲となり汗と血をすて、働いてある。それにくらべたら我々の苦みがなんだ。不平不満をいはないで各々その職分に応じて少死に働かなければ満州の兵士諸のみならず、

ゆかれるが分りません。酒さんは知つてゐるでしょう、酒さんの村、酒さんの町で酒屋は・・・・・・・・・・・・・・人たちが、どんに生活に困つてゐるか、どんな心配して日を過ごしてゐるか、酒さんはそれだけでおくにまでに自分を囲へた家族・生活をつかむ片輪にかつたまゝ息子かり出へた家族がどんなに悲しみ・どんに生活に苦しんでゐるかを知つてゐるでしょう。

酒さんの中には、大事の嫁ぎ手を戦争にとられた人、又愛する夫主息子を親を戦死者として永久に失はれた人も居るでしょう。

今までは酒屋はもつてかい酒さんの酒さん上の酒さんだつていつそうおまかせ下りません。

家、社会に押し潰されてしまいます。

二私達は考へ方くてはなりません。

酒さん！酒さんは新聞やラヂオ・雑誌等で、おもいは工場の社長や重役の説教で、めしは農家、青年団・青訓・在郷軍人会等々いたるところで聞かされたでしょう。

「国家非常時だのみんな苦しいのは我慢しろくちやぶらんの満州は日本の生命線だ。我々は何にかへても満州の権益を守らなくてはならん。東洋平和のためだ。徒仁のためだ。満州に居る兵士は我々八千万同胞のために犠牲となり汗と血をすて、働いてある。それにくらべたら我々の苦みがなんだ。不平不満をいはないで各々その職分に応じて少死に働かなければ満州の兵士諸のみならず、

そして銃後の任務として細い生活の中から強制的に、慰問袋の金や贈品の寄附をとられました。

どうです。みなさん。労働者は一日十二時間も十三時間も働らいて妻子を持つた大勢が、六十幾や七十年の負債で、どんな苦しい生活をしねばならないかうと、料業場の女工さんがどんなに身体をすりへらして働らいても一日三十銭たらずと言ふべら棒な賃金しかもらへまいと、そんな事で不平不満をいつてはならないのかへでも自分の仕事に一生懸命にかれ、と言ふのです。——成る程。これは労働者を甘かせておけば要するに金持にはたいへん都合のよい話しです。だよへば鶴岡の水道工事や、福田

の市政工事ふしも敷地都の債務をウンと下げ（土と訓みます）学校の拡張、その他の事業をして市会議員や役員師がたんまりふところへ入れるこうこうこと、そのまま信じてはおられないのです。

私に聞きましょう。兵隊にとられ、戦争にかりだされまいと、高利貸にイビられようと五年も十年も満州の奥地に申訳があるまいと土地取り上げをくわないで来ても不満をいえば警察へがやって来ても不満をいえば警察へ連行されようと、税金が高くてやりきれないからいえ。そんな事をしてはおられない——これは地主や金貸には何んと言われようとうまい訓しではありませんか。だがそのかはり労働者や百姓は手出しにくくてしまいます。だからたちは議員や弁護士やラジオがハヤし立てる事、軍閥家人会や青年団や青少団で煽動する事、軍人会や在郷軍人会や青年団や青少団で煽動する事、軍人会や在郷軍人会や青年団や青少団で煽動する事、軍人会や在郷軍

の一材益しではありません。

「御口のためだ」「口腹のためだ」「日本の生命線だ」ということばは、いやになる程きかされてきましたが今われたくし達は「御口」の「日本」の私たち労働者、農民のためでかい事はハツキリわかつて居ます。「満州の奴土は八千万同胞のために」「日本の過剰人口の捌口のために」「日本の生命線だ」という説しが出鱈らめのウソ八百で好奇ともハツキリ分りました。

では何のために誰のために戦争をするのでしょうか？労働者、農民は何のために誰のために戦争に引ツぱりだされて死んだり、片輪になつたりしなければならないのでしょう？

又、新聞や雑誌やラジオ、在郷軍人会や青年団や青訓で、名士や将校や、教育や校長や先生達はおせ嘘八百をならべたてるではないか？傷痍軍人会や愛国婦人会のお偉い人達や、或は工場の社長や勲章は何故ウソを言つてゐるか？

「どんな嘘をいつてるんだい？」といふのですか？それはこうです。それ等の物、それ等の人はいつでも戦争を日本全体の為め、日本国民全体のためであるように言いますッだが私たちは日本の労働者、農民のためではない事を知つてゐます。だから「日本全体」「日本国民全体」と言ふのがウソだことは今りますッ又戦争のために労働者、農民がどんなに苦しまねばならないか、どんなに悲惨な目に合わねばならないかといふことも云いません。こんな風に

べら切りがありませんッとにかく、こん奥の事にウソ言いて、やれ名誉だの、やれ思想善導だのと言つて、労働者、農民を戦争にかりたて、戦争に反対させないようにするためいやシ並てゐるのです。ホントにそんなことをするのか？

それから、労働者、農民を苦しめる戦争をオッ始めて、トテツもない金を使かてる政府や議会ぶんて、一体何のために、誰のために、あるのか？

とういふイロ〳〵のことについて私たちは考へなければいけないのです。

例いても例いても貧乏にある仲間達よ、仲間よ、きたくても仕事のない御両親たちよ！貧乏に苦しむ妻子を捨て、戦争に行かされ

- 戦争々々といつまで続く
- 父よ！満州から早よう帰へてこう。
- 父のゐぬ間に土地は取り上げ
- 飯ばくへぬらし、母ちやは泣くし
- あいらきらいだ、戦争はいやだ

婆は父を、よびく死ぬし。

（満州娘の詩）

戦争はなぜおこったか？

――資本家地主は戦争で大儲け――

一日を動かしてみるのは誰か？

いま日本を動かしてみるのは誰でしょうか？――いやこんな風にいうよりも、同じことですが日本は誰に都合よく出来てみるか？と言った方が話に早わかりでしょう。

対米英戦争はよくないと思います。――資本家や地主に都合よくできています。

だれがこれを喰だと訊ふことが出来ますか？だからそれは誰に都合がいいか。資本家は勿論地主に都合のよいことです。労働者の賃銀をきりさげたり、労働時間を長くしたりして、一日にすこしだとか五十銭、十五銭とかの賃銀では一日も生活もやっていけません。

ただこれだけの事を見ただけでも、今の世の

財閥はどこまで儲けるか？

毎年百姓から汗の結晶で出来る収穫の半分も、ふところ手のまま巻き上げたり、金を貸して高利を搾つて儲けてゐます。それに労働者が賃金切り下げや首にかつたりする時、生活を守る大衆をまとめこしたり、軍民がどうしても黙つてゐないので、小作料をまけろ、借金を棒引にしろと言つて小作争議を起すと、たちまち警察サツがのり出して、資本家や地主の立場をまもるために、ストライキや争議のたゝかひにかぶりをふります。

ひにかぶりをふります。

ただこれだけの事を見ただけでも、今の世の

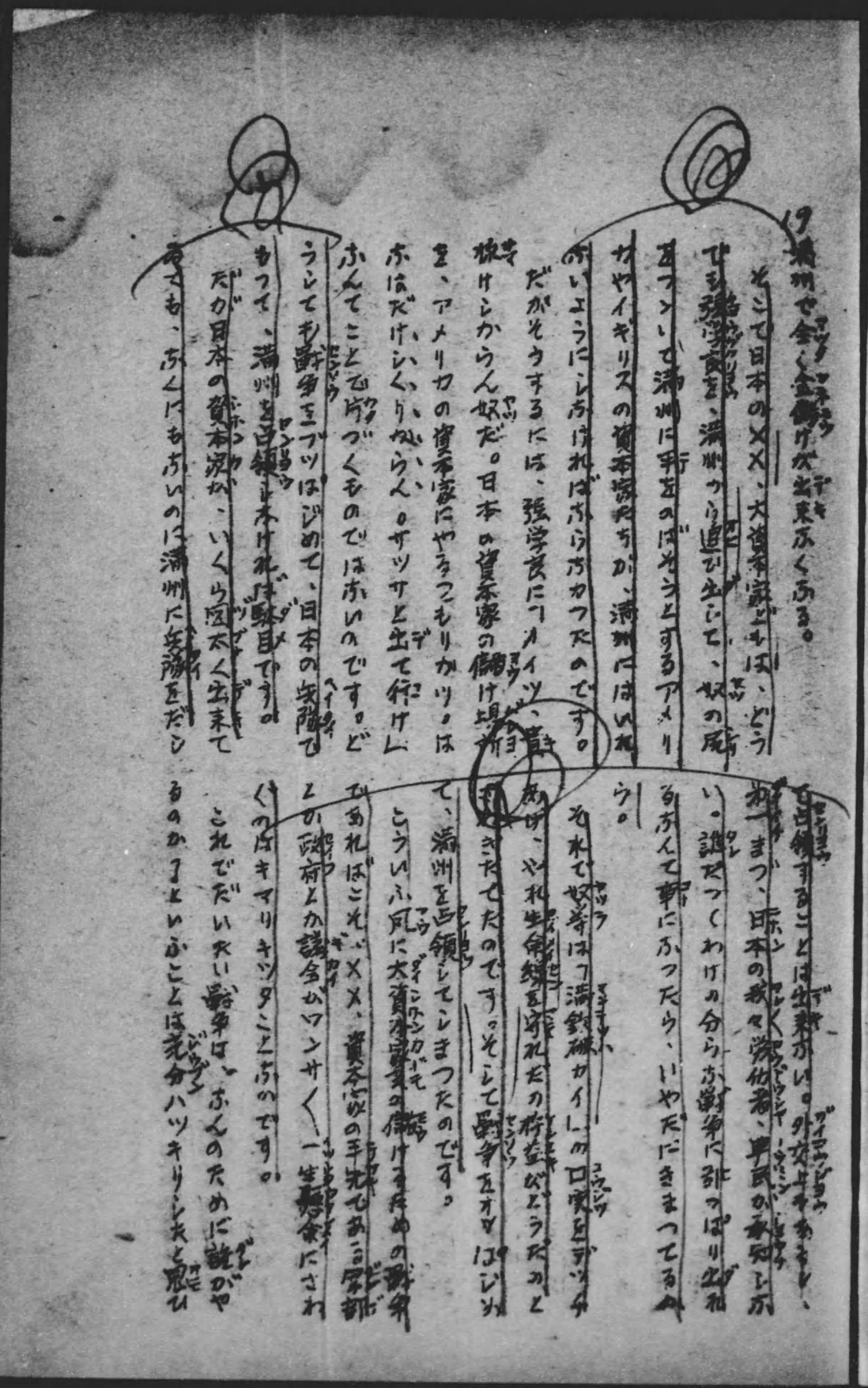
戦争は、どんな所に責任者、犯人に都合よく、都合よくできてゐるかがハッキリ解ります。

では次ぎそうかのでしょう。それは日本の政治は、労働者、農民がやってゐるのではなく、労働者、農民を搾り苦しめる、若連がやってゐるからです。

第一議会を見ませう。代議士（みんな三井、三菱、住友、安田ふどこういふ大財閥（金融資本家）です。それで此の大資本家は、軍閥だろうが官僚だろうが、軍部を含めみんな自分の手分みたいにして、議会や政府を自分に都合のよいように動かしてゐるんです。――だからこの議会で決められた（日本の××××××が殆ど××××が殆ど）のです。ところが××はかんたん、一枚はいでみれば、ほんの人と大資本家であり大地主なのです。だから、三井、三菱、住友、安田ふどの大財閥、その他の資本家、地主と利害関係が一致してゐます。

だから日本の政治は資本家、地主のことに大資本家が自由にふってみることは、疑がうんの。そしていま日本では沢山の資本家、地主のうちが騒ぎ動かがあって騒張つてゐるのは

ことの出来ない事実です。そして政治は資本


15 満州・地主の利益にふるように・ことに
家の利益にふるようにやられてゐることは・
あまりハッキリし過ぎて・説かまでもないことと
かゞです。
二 戦争は何故はじまったか?
資本家地主は戦争で大儲けする。
一昨年から満州で戦争がはじまつてみ
ますと何故はじまつたのでしょうそして
や政府の動向・戦争をやることにきめ
たからじゃ ないか——そうです。だが何
故きめたのでしょうかそれはこうかの
です
メメや三井・三菱など大資本家は・満
州に何億もの金を投じて・林さの会社や
工場を建てたり・満州の資本家に金をかし
つけて日本と同じてご金儲けをやつてみたのです。
日本の大資本家にとつてはこいつは甚だしやく
にさわることゞした。それに満州
にあた弱小国という奴は・アメリカやイギリスの
大資本家に金をにぎらせられて・アメリカやイギ
リスに・鉄道・フセツ権をあたへようとしたり・石
炭のサイクツ権をあたへようとしたりするのです。
そんなことをされては大変だ。日本の資本家は
15 満州で金儲けする
そこで日本のメメ・大資本家どもは・どう
でも満州を・満州から追ひ出して・奴の居
所で満州に手をのばそうとするアメリ
カやイギリスの資本家たちから・満州にはいれ
ないようにしなければならなかつたのです。
だがそうするには・強学長にノオイツ・真
掛けらうん奴だ。日本の資本家の儲け場所
を・アメリカの資本家にやるつもりかッ・はら
はだけしくりかへらん。ヂツサと出て行けム
ふんてことゞ ぐづくものではないのです。どう
うしても戦争をフッはじめて・日本の版図
もつて・満州を日領土本け花ゞ駄目でうの
だが日本の資本家が・いくら阪太く出来て
も・ぶんにもあいのは満州に失敗をだし
これでだいぶ戦争は・ふんのために説がや
るのかということは充分ハッキリした夫と思ひ

20

ます。

しかし皆さんの中には、一寸でも日本ぴやツトも満州を占領したり、居□にこたかしてあんかみあいぴやあいか。ちや人と満州□といふ□が出来て、日本はそれを助けることによって、東洋平和のためにつくしてるぐらいかね。日本の資本家が金儲けのために西領したんて、そん馬鹿なことはない。」といふ人があるかもしれません。ところがそういふ人は、資本家のゴマカシにウマくとのせられてゐるんです。

何故ぜこんなうそを先ずは日本の労働者と農民の為に□□（日本人）の為つて人達は、今の戦争は、日本の資本家、地主が儲けるために満州を略奪するための戦争をやるためには莫大な武器や弾薬が必用ですのそこで鉄工場・ゴム工場・化学工場・肥料やその他の村械製造工場・おぜはスグに軍需品工場に代つて、武器・弾薬・毒ガスかどをつくる工場に早変りしてしまひます。それ労働者は、居呆・残業で一日十五六時間も吉田やそこらの馬鹿位い働金で死ぬ程こき使ひますのそして、こういふ工場を経営してゐる会社（資本家共）ばウナル程儲けるのです。又そういう会社おそに、シンタマ金を貸つけてる銀行おども大儲けりです。

× × ×

日本の資本家・地主は満州を略奪して儲けるばかりでおく、略奪するための戦争でも儲けてるのです。どうしてでしょう？

今までズーと読んで見ると、ある事、資本本源の野郎は、悪事で大儲けするのは分るの、地主はちつとも何もおいしやおいかと言はれ

ます。

しかし働さんの中には、丁でも日本びやすツトも満州を占領しやり、扇口にしたりしてふんかみふいびやふいか。ちやんと満州口と いふ口が出来て、日本はそれ丈助けることによって、東洋平和のためにつくしてるんだけどやふいかねの日本の資本家が金儲けのために占領したんでそんな馬鹿なことはふいよ。」といふ人があるかもしれません。ところがそういふ人は、資本家のゴマカシにウマくとのせられてるんです。

何故ならば日本は二ヶ所丈で、日本の労働者、農民は、口口（支那）の労働者、農民と同じく、すでに前の分つた人達は、今の戦争は資本家、地主が儲けるための戦争であり、その戦争の犠牲者は、日本や中国（支那）の労働者、農民はいずれも同じ目に合ふんだと言ふことを知つて戦争に反対してみるんです。だから日本は兄弟助けることによつて、東洋平和のためにつくしてるんだといふことが余りハッキリ分つては、日本帝口の労働者、農民が益々ますます反対するでそうそこで、こいつは少々マイあんばいにして労働者、農民に、戦争に反対させないようにしておらんとそうしておくては、税金高くて満州略奪はやれんと気がついたのです。それで奴等は「満州口口」といふ、看板だけは細工口のおヤツリ人形をつくり出して、日本が満州でやつた満鉄は東洋平和のためだと言つてみるのです。

検閲の方法

皆さんの人数全部を見て人数かぎりで動くと思つてはいけません。見てください、満州口政府の重要な地位には日本人（日本の大資家の手先）がすわつておたり、あるいは満州口口商ホンとのがおつて口口（日本人——資本家の手先）にお伺いをたてなければ、満州口政府は何にも出来ないようにふつてあるのです。だから「満州口」とは、日本の資本家が満州をとることに、日本や中口の労働者、農民が反対しないように、労働者、農民をゴマカスために、日本の資本家がつくつたものの名のです。

× × ×

日本の資本家、地主は満州を略奪して儲けるばかりでおく、略奪するための戦争でも儲けてるのです。どうしてでしょうか。

× × ×

今までズーと読んで見ると、ある事、資本本源の事は、戦争で大儲けするのは分るの、地主はちつとも何ある儲かいじやふいかと言はれ

山るかもしれません。

だが野さん・地主は、農民から毎年々々血の出る様な小作料を巻きあげますが、地主はそれをダマッて黙にしまって置くでしょうか？皆さん、地主はとんぶ百姓ではありません。数万円から大金で、色んな大きな銀行、事業会社の株や社債をウントコサ買って持ってるんです。だから皆さんは、商業会社や銀行の重役にふって、威張ってる地主を知ってるでしょう。こういふ風に地主は、地主であり、一方資本家なのです。

だから、資本家が満州に金を出して事業をはじめて儲けるとか、満州に商品を売りつけて儲けるとか、軍需品工場で大儲けだとか言うことは、それは地主も大儲けだといふことにあるんです。それで地主は大賛成ふんでます。

三、戦争の費用を誰ふのは労働者・農民、その他の働らく人達です。

物価はふせぎあるのか？

戦争をするには金がいります。一日の飛行機を造くるにも何万といふ金がいります。軍艦だ、大砲だ、タンクだ、弾薬だと、とんでもふい金がふければ戦争はできふいものです。ではその戦争の費用は一体、誰が出すのでしょう。戦争をやることでもって、ヒコタマ儲ける資本家・地主でしょうか？とんでもふい。戦争は出すことから、それこそ本当に誰るものではふい。だから紙幣を出すのも嫌がります。みんな労働者・農民、その他の働く人達のふところから出てあるのです。

二、皆さんは、去年議会で八年後の予算として二十二億の莫大ふ予算が満場一致可決されたことを知ってるでしょう。御承知の予算はウソと御許で十二億です。（これだけでさへも政府では経費・赤字公債を発行してるのですから）此の差額十億は何のためでしょうか？（これだけでさへ、十数億の紙幣はずと知れ大陸海軍費ですが、それは支那との戦争の為めにやる軍費です。そこへ又十億あまり主の利益のためにやる軍費です。それこそ地ーーのだから紙幣は金貨と交換されることて此の「陸海軍費」は勿論全部公債発行です。政府は公債を出して、それを金に代えるのです。どうして、代るかと言ふと、政府は発行した公債を日本銀行にもって行って、公債と同一枚かえこうで動へたものが二枚も三枚も出さかければ動へふいといふことになるのです

ように、公債発行のためばかりではありません。公債発行が莫大に大きな影響にふってみるのです」

（皆さん！掲示がうみると、少ないものでも三割、四割から、多いのにふると十割近くまでうえて百姓だけでは食れふくて田畑をやそれんど統べての物が高くふってみます。私達の利益をうえくさんへの平民、実業者は、全く餓死するほかはありものもふれて、マス〳〵生活がしかないようふ破目にたゝき落されようとしてみるのです。

皆さん、挙国一致内閣だあんてゴマカされてはいけません。政府あんて今までツーツと言って来たように、××、資本家・地主のみの味方のです。××、軍事家、地主の為利益のために戦争をはじめて、戦争の負担は勤労者、平民のフトコロから巻きあげる。こ

ことは確かです。そして政府では、公債発行のためばかりではありません。物価は今年より何倍も高くふるでせう。又政府では戦争で金がいるかといふので、失業救済費や戦時土事費（日華事変の）をグンと減らしてしまひました。こ

（皆さん、掲示がうみると、少ないものでも三割、四割から、多いのにふると十割近くまでうえて百姓だけでは食れふくて田畑をやそれんど統べての物が高くふってみます。私達の利益をうえくさんへの平民、実業者は、全く餓死するほかはありものもふれて、マス〳〵生活がしかないようふ破目にたゝき落されようとしてみるのです。

皆さん、挙国一致内閣だあんてゴマカされてはいけません。政府あんて今までツーツと言って来たように、××、資本家・地主のみの味方のです。××、軍事家、地主の為利益のために戦争をはじめて、戦争の負担は勤労者、平民のフトコロから巻きあげる。こ

政府が発行した公債を日本銀行が金（紙幣）にかへることはサツキいったとほりです。ところが日本銀行はその公債を一ダン〳〵買うんです。誰が買ふのか？その日の飯さへ食へふい勤労者や平民にそんふ金はふい。買ふのは私達を搾つてボロイ儲けをやつてる資本家・地主やその他の金持共です。公債には黙つてゐて一年五分の利息がつきます。政府はその利息を払ふのだがその金をどこから出すか？

見ふさい。××、資本家・地主共の手先きである挙国一致内閣や民党屋どもは、みんな一諸に立つて、公債の利子支払のために、地租

（皆さん！掲示がうみると、少ないものでも三割、四割から、多いのにふると十割近くまでうえて百姓だけでは食れふくて田畑をやそれんど統べての物が高くふってみます。私達の利益をうえくさんへの平民、実業者は、全く餓死するほかはありものもふれて、マス〳〵生活がしかないようふ破目にたゝき落されようとしてみるのです。

皆さん、挙国一致内閣だあんてゴマカされてはいけません。政府あんて今までツーツと言って来たように、××、資本家・地主のみの味方のです。××、軍事家、地主の為利益のために戦争をはじめて、戦争の負担は勤労者、平民のフトコロから巻きあげる。こ

政府が発行した公債を日本銀行が金（紙幣）にかへることはサツキいったとほりです。ところが日本銀行はその公債を一ダン〳〵買うんです。誰が買ふのか？その日の飯さへ食へふい勤労者や平民にそんふ金はふい。買ふのは私達を搾つてボロイ儲けをやつてる資本家・地主やその他の金持共です。公債には黙つてゐて一年五分の利息がつきます。政府はその利息を払ふのだがその金をどこから出すか？

見ふさい。××、資本家・地主共の手先きである挙国一致内閣や民党屋どもは、みんな一諸に立つて、公債の利子支払のために、地租

ふれ、鉱山や鉄工場の労働者、小作人を搾つて、戦争の負担をさせようとしてゐるのです。

××

戦争でふい物価がふがるといふことについて、公債発行のことはのべました。がそれの原因は公債発行だけではありません。

戦争ふどはじまると、様々の工場が軍需工場にかりまり。――すふはち武器・弾薬の製造工場に、ふるのです。例へば肥料を造る工場でふくて・レキ造くる工場は毒ガスを造くる工場でふくて・レキふれ、鉱山や鉄工場の労働者、小作人を搾つて、戦争の負担をさせようとしてゐるのです。

××

戦争でふい物価がふがるといふことについて、公債発行のことはのべました。がそれの原因は公債発行だけではありません。

戦争ふどはじまると、様々の工場が軍需工場にかりまり。――すふはち武器・弾薬の製造工場に、ふるのです。例へば肥料を造る工場でふくて・レキ造くる工場は毒ガスを造くる工場でふくて・レキ

ふれ、鉱山や鉄工場の労働者、小作人を搾つて、戦争の負担をさせようとしてゐるのです。

××

戦争でふい物価がふがるといふことについて、公債発行のことはのべました。がそれの原因は公債発行だけではありません。

戦争ふどはじまると、様々の工場が軍需工場にかりまり。――すふはち武器・弾薬の製造工場に、ふるのです。例へば肥料を造る工場でふくて・レキ造くる工場は毒ガスを造くる工場でふくて・レキ

労・市民――働く総ての私たちが戦争で殺され、戦争に引っぱり出されて、ひどい働らき方やらせられ、食べるものまですてておけばからおいのは自分の家族や、食べ物沢山の仲間のためではおくて、資本家・地主の金儲けのためだったのです。

ところが、××、資本家、地主達は、労働者・農民――働く総べての人が此のことを知りツキリと知り、戦争に反対されるのが怖ろしいのだから、学校・青年団・青訓・在郷軍人会等を利用して、我々勤労大衆（労働者、農民、その他の働く総べての人）をゴマカンしてあります。それだけで足らず、奴等はラジオや新聞、雑誌までを利用してみます。どう、ふ具合にゴマカソウとしているかというと、

いふと、戦争は日本人全体のためにやるのだ!!滿州は日本人全体の生命線だ!!だから此の「□□」が非常時において□民（勤労大衆）は銃後の覚悟がかけねばからおい。物価が高い。賃銀は上らおい。働きたくとも仕事がおい。――いまは□□非常時だ。みお軍慢しおければからん。小作料がどうの、借金がどうの、税金がどうの、――そんおことでネオンが行動をやる奴は非□民だ。□□非常時にそんおことをやってはからん。

働き手が戦争にとられて飯が喰へくとてそれはオヨだ。八千万同胞のためだ。シのばふくてはからん。大事の体が肝腎にかつた？人、それは此のうへもおい目出たい話しだ。絆がハチ切れんばかりのためイッテン、バンザイの

××のために、それまで働らいたとは、まだかつたとは、男児の本カイこれに勝ることはおい。あ、実に名誉お謝レジや――と大体こんた具合です。

××、資本家、地主といふ奴は、実にぬけめのおい悪党です。だが経々は、断じてこんふごまかレに引っかかってはおりません。

奴等のやり口と、戦争の正体を、工場や村の中で友達に教へてやり、弟くの仲間を資本家地主のゴマカシから引きづり出して、一緒に戦争に反対しなければおりません。

資本家、地主の金儲けのための戦争、労働者農民は一ドイ日にも早おせる為に私たち青年大衆は一致団結して反対し、戦争を止めさせなければおりません。

はたらけど
はたらけど
猶わが暮し楽にならざり
じっと手を見る

○いくらはたらいても
いつまでこれで暮れようか
憎い資本家のうちたほし
自由の□を築きましょう

○夏でも冬でもおわた女たち
はたはたのかかで世を送る
青春も裏もなばられて
泣きの涙の糸結び

○夏のはたはたは火の地獄
汗にまみれて十二時間
一日たった三十銭
悲しいくやしい糸きりバ

（此の太陽のふし）

はた
村葉工場
の、うた

ソヴエートロシヤでは

ソヴエート労働者の家計しらべ

ソヴエートの労働者はどんぶくらしをしてゐるだろうか？

一日平均——日ソ文化協会のコルヴエートの話しより

この統計が非常に多いので吾々はモスクワのプロレタリアート科横工場）に働いてゐる、プイルホフ君の一家を訪ねて、その家計を聞かせてもらうことにした。

この六人のうち、一番年下のヴイチヤと祖母のアンナをのぞいた五人が働いて、家の収入を支へている。みんな一日七時間、一週五日、助働くわけである。

祖母のアンナは印刷工場で十年間、働らいてゐたが、去年の四月に家の仕事や勉強をするうちがいかないからというので、辞職を願でて許可された。

次のごとくである。

一家の職業

父・プイルホフ
母・アンナ・プイルホフ
長男・コンスタンチン　旋盤工
二男・ヴイチヤ
長女・ヴエラ　女子ナージダ

父親のプイルホフは旋盤工で、月百八十五ルーブル（約百八十五円）かせぐ。その上祖母は四十年間働らいてゐるおかげで、月に五十二ルーブル（五十二円）を恩給としてもらふ。

は革命前から働いてゐるんだが、その当時は木造の、ひあたりの悪い工場に十二時間から十四時間も働かされたといつてゐる。現在は革命のせつてゐるにも拘らず突撃競争に勝負にかはつてゐる。

長女のヴェラは同じ工場で図案家をやつてゐて、百三十五ルーブル（百三十五円）かせぐ。仕事をすむとヴェラは洋裁校へ行つて、材料の研究をするために勉強する。妹のナデージダは、商業組合の費用で働いてゐて、百ルーブル（百円）かせぐ。長男のコンスタンチンは「クラスヌイ・プロレターリ」の職工をやはりつてゐて、百ルーブル（百円）とる。十七才のニコライは、進歩する結果、いろんな労働者の必要に応じ

以上で全収入の九パーセントにあたる。消費組合の会費が月に九ルーブル、労働組合と党の会費、収入税等で収入の五パーセントがつぶされる。

収入のハスパーセントが食物と衣服と設案にのこるわけだ。

ニコライは新調の洋服を四十四ルーブル（四十四円）でこしらへた。休みの日には若い娘ひに公園やプールで楽しく遊ぶことが出来るし、活動写真や芝居を見るにも組合員には割引があるから十カペイク（十銭）位で見にゆける。

アイリボフは毎年給料つきで一ケ月の休暇をもらふ。重工業の労働者はみんな一ケ月の休暇をもらふ。他の労働者は二週間もらへる。

まづ家賃は二十パーセント。一家は新しく立派な労働者住宅にアパートを借りてゐる。二室に満厨と公所がそなへてある。水道、ガス、電気、電話に十ヌルーブルかゝる。

・（重工業の労働者は他の労働よりも労働がはげしいから休暇がおおい）

アイリボフ家では一家そろって完全な社会保険の保護をうけてみる。病気にかかったり、事故にあったり、又傷病のために工場をとるような場合には、（働らいてみたと同じ給料）支ばらわれる。また養老や休息の家に入れる。

毎日食うための心配

病気にかかったらという心配

失業したらという不安——こうしたものが全然ない。彼等一家はほんとうに愉快に幸福に暮してゐる。

いつでも余裕のあるくらし——これがロシヤの労働者の生活である。

資本家・地主のおおい国——ソヴエートロシヤの労働者。彼らは愉快に幸福にはたらいてゐる

一日七時間労働・一週五日制

最低賃金が十円・平均賃金が百二十円

失業者のない国・失業の心配のない国

病気にかかっても賃金をもらって休める国・

たゞで、どんな養生でもできる国

労働者が毎年給料つきで二週間から二ケ月の休暇のもらへる国

資本家・地主のおおい国——ロシヤ!!

労働者・無産の国——ソヴエート・ロシヤ!!

ロシヤにお嫁にゆきたい

——女工さんのはなし——

夕方。舞台正面にこんもりした木が四五本。木のかげにかくれて工場の一部。夕焼の気持。下手から女工100人登場。

道子　あっ、終業から掃除かんてホントニひどいわ。ロシヤみたいに七時間だけしか働かないんだといっちゃあ——。

芳子　だけどロシヤってそんなにいい国？

道子　どうして。あんた、うそだと思うの？

芳子　でもアメリカぐらいで夢みたいだわ、道子。

（そういひながら木の下に腰五下す）

ああアいくたぶれた。少し休んで行こうよ。

美代　みんな、ふらんで腰をおろすまあ——。きれいね（夕日を見る）

ばくぶつもあるわ。監督のデカ目にはいつも怒鳴られプし——。

道子　あんたったら、デカ目に舌を生じをしかめつ面したりするんだもの。

芳子　註がさ——。

あたしロレヤの工場で御飯くってみたいお。大きお、きれいお食堂でさ、御馳走がヤーンとついてよ、皆んお一緒に集まってね、

きみ　そしたら芳ちゃん、あの大きお茶当でニつぐいをたべるんじやおい？

みんお笑ふ。

芳子　いやあねー。おんぼだって、あたしミそんおにたべるもんか。

きみ　真面目お話しよ。あたしたちおんてい

林檎んとこでロクスッポ噛みもせずに弁当かつこむんだもの——あたし此度へきてからすつかり胃腸こわしちやつた。

道子　ホント本当ね。

きみ　美代ちやんチットも元気おいのね。どうしたの？

美代　んん、あのオ、あたしイ、ここでもおんでもおいの。

きみ　オカしイわね、どうしたのよ。

芳子　あっ、さつき美公デカ目にしかられてたのね。きつとそのことよ、おにしたの？

きみ　おあんだ、そんおこと何もかくすことおいじやおい？いつまおしまいよ。

美代　あのオ——ねつ（赤くおつて声かしそうに単をむしりおがら）あのオ——あたし、

今日オね、（だんく少さお声で）便所へ御度を行つたの、あのーそんでね、あたしたし仕様がおいわ。

きみ　（少さお声）だつてー、あ

八一オニツクリして）アラツ、美代ちやんがね。

道子と芳子クスく笑ふ。美代泣き出しそうお顔。

きみ　（少しあわてつ。怒つた様お声で）ひごとじやおいわよ。あたしたち、みんおそれで話しんでるんじやおいつ新ちやんだつて新に怒鳴れたくせに。ね、あたしたち林むことおんてトツテも出来おいし、便所へゆけば怒鳴れつレ——だからみんお無理おことして

体こわすんだわ。

ロレヤじやね、そん時はね、ちやんと休めんの——賃金もらつてよ。

美代　おどろいたようにきみの顔を見る。

芳子、道子　まあ、いつのね——でもそれ本当。

（ニコく（しおがら）あん違あたし皆ウソつきだと思ふの。ロレヤのこと、おに言つても本気しおいのね。

道子　そんお、きみさんまウソつきだおんてミミミそんおんじやおいわ。

たゞ何から何まであんまりよすぎるんだもの。夢みたいお気がするのよ。

芳子　あのねきみさん。ロレヤとあたし違と。どうしてそんおに違ふのよ。

それはね、ロシヤにはね、資本家がないからよ。ホラ時々工場に来てまー、終業から一時間も二時間もすぎらしてよ。

――国家非常時だから、みなさんは一生懸命に働いて――よいハタを織って、御国のためにつくさなくてはならん。

道子　きみだけがあんだって、それでできたらいゝでしよ。デカ目にもみこられないようにあつたら――。

芽子　そんなことモチよ、ねえ美公。

美代　はきみの顔を見つめながら大きくウナヅク。

きみ　ところでね、ロシヤの労働者はね、みんないからよ。日本の資本家が儲けてゼイタクしてる金、あたしたちみたい貧乏ボーボーにわけてごらんよ。たいしたもんだわ、あたしたちだつてロシヤみたいに一日に七時間働いてよ、五日に一度休んで、それで賃金あんかツーツとよいにきまつてるわよ。

道子　でもそんな事できないわよ。

きみ　ところでね、ロシヤの労働者はね、みんな工場からごやごやいゝ、ロシヤからオに出ちまつた人だつて。だからねロシヤにはウチの大将みたいのやデカ目みたいのがあんかあるいの。

芽子　あつて、あのデカ目人畜生みたいな奴みんらセイ〳〵するわね。

――こりアツ、よらツ、まだかアツ、もう一ぺんその面しかめてみろツ。ヒヨットコ奴ツ。――（デカ目の口まね）

美代　皆んな笑ふ。

でも、そんなことこわいわ。ロシヤは赤だもの。日本でそんなことしたらいけないわ、

きみ　（ニコ〳〵して）アラア。ぎや美代ちやんは。

ふして資本家やデカ目みたいな奴みんな工場からごやごやいゝ、ロシヤからオに出ちまつた人だつて。だからねロシヤにはウチの大将みたいのやデカ目みたいのがあんかあるいの。

芽子　あつて、あのデカ目人畜生みたいな奴みんらセイ〳〵するわね。

――こりアツ、よらツ、まだかアツ、もう一ぺんその面しかめてみろツ。ヒヨットコ奴ツ。――（デカ目の口まね）

美代　皆んな笑ふ。

でも、そんなことこわいわ。ロシヤは赤だもの。日本でそんなことしたらいけないわ、

きみ　（ニコ〳〵して）アラア。ぎや美代ちやんは。やんは、デカメに叱られてこんのがいいのつそれにさ、朝から晩まで働かせぎ通しで終業から掃除までさせられてよ、休みは第一日曜と第三日曜、それも休みは賃金がつかあんあ。

そんなのがロシヤよかいうの？

美代　（困つたように）でもく、そんなことこわいわ、あたし――

道代　（考へ込んでみたが思ひ出した様に）みんなで追ひ出したのね。でもそんなことできるかしら――。

きみ　ふに訊つてんのよ。ロシヤの労働者がやつてるじやないの。日本だつてどこだつて、労働者がみんなその気になつてさ、一緒にかつてやればきつと出来てよ

。だけど御仏前の美代ちゃんみたいな
ことをいってたら駄目よ。

美代　でも――でも、だって

きみ　あっ御免ね。美代ちゃんが悪いんじゃ
ないのよ。美代ちゃんに、そんなウソ
のこと教へた人があるいのよ。学校の
先生かんかね。
あっち、話しがスッカリこがれちゃっ
たっ

あのね、それからね、日本の政府では
庫に何百万石もお米こしまってあるんだ
つて、それがだん！！下の方から腐つ
てくるんだけどね（みんなあー
と驚く）そして日本にはあたし達の様
みたい貧乏な人が、あたしたちより、

美代　おかしいわねえ、それ――そんなお米、
あるんなら、隣の定ちゃんみたいな家
にやったらいいわ。

あのね、定ちゃんの家とつてもひだい
のよ。お父さんは身体わるくて仕事も
いこし、兄さんみれればよいのに、満
州へ行てんか。定ちゃんの下に小さい
子三人もみんなに仕くのお母さんと定
ちゃんだけかんだもの。それにね、お
母さんね、兄さんのこと心配して毎日
みたい泣いてるわよ。

"きみ　その定ちゃんとお姉さんね。ふにこれ
仕いてんの。

美代　お姉さんはね、豆腐屋から豆腐やさま
ざまのもの貰らしてもらつてんの、今
れ、よう知と御得意がふえてね、一日
二十丁は儲かるんだつて。定ちゃん
はね金里町の杉本ハタ場へ
行つてんの。あそこね、あしたちんと
とよか、もつとハいそうだわよ。

芳子　ウワー、こつちかひどいの？（大声）

道子　（ビツクリして）いやよ大きが声ネ
てビツクリするじやおい？

きみ　その定ちゃんはいくつおの？

美代　あのしと同んおし（きみてまあしと小
さ）此の間、道子兄さん――あの今

（机に行つてる兄さんの下の人よ、生き
てればよかつたつて泣いてれわ。兄さん
が死んだりおんかしたらお母さんキツト
気狂にかつてしまがんだつて。あたしも
いつしよに泣いちやつたの。

みんな　まあ可愛想だわね。

道子　芳ちやん

芳子　（大声で）ハーイツ

道子　（ビツクリして）あっ――。あんたつた
ら（皆んな笑ふ。道子も笑いながら）軒
がつけられおいわ。

あんたの兄さんは検査いつおの？

芳子　すんだの。第一乙おの。だから野手大き
くおつたら行かおりればおら仕いんだつ
て。あたしは叱られおくつて助かるんだ

けど（みんな笑ふ）――でも困るのよ。

兄　兄さんみたいとあまいくまくへふくあるわ。いやねお嫁に（少しモヂて）

でもそうふったらあたし、その傷らせてるお米でもくれ点かったら断然あこがつているわ。

美代　（真面目に）ヲラ、おこんのこをうするといっの？

きみ　（ふきだしながら）あこつたつて駄目よ。それにれみ米ばかしぢやおいの、砂糖ふんかもね――男の心臓とごとあんまり沢山よれちとみんかたいなまふんだって。

兄　ヲラ、たくのっどうしてもおんだろ

きみ　ふんにもかくにはむみんかんうふんだ

たいたりすへるよ。

でもね、ロシヤじやちがふの。みんかが働らいて、働ふがたべたり着たりするためにつくつてんのの資本家がおいからよ。だがりね、いくら沢山よれたつていっのも沢山よれたつけみんよりいたべれるんだものねっ

ね、だからロシヤの労働者はね、資本家が儲けてる金と、たいちまつたり、庫にしまひこんで暮らしてしまつてそりする物をみんかの生活のために使ふてだつてっロシヤの労働者があたしたちよりツーツと天辺はたりいて、あたしたちよりツーツとよい生活ができんの

道の　でも、おんたロシヤのことや、いろんかふことよ知つてんのね。どうしてそんかに覚えてんのっ？

たねあかしねハ笑ふ）それはねあたしにお友達がみるの、メメで働らいてたんだけご首にかつて帰つてきたのよっとつてもいっ人よっ近所に引越してきたのですぐか友達にかつて、いろんかこと聞いたの。

あたしもにじめね、ロシヤ話、面白いた時はね、本気しふかつたの。あんたたちは本当の程本当だと思ってるけど半分はウソだと思ってんのね。

でも初じめはみんかそうおんだってス

ミさん——その友達の名前よ。スミさんもそう言ってたわ、自分もそうだって、あたしが口レヤのことを本当だと思ってるようにあってもから、そういってたわ。

あたしあんか、とってもガンバったの。口レヤは赤だから、そんな話し方するのは共産党だろくてね。そしたらね、赤や共産党がどうして悪いんだって聞かれたの——あたし困っちゃった。わの赤がどんなもんで、共産党がどんなものか、ちっとも知らないんだもの和。学校やおんなで聞いて聞いてって教えられたから悪いと思ってるだけで何故悪いかくていわれたって弱ったわ。

いわ。

そしたらね、いろんなものそれから見せられたわよ。本や、ソビエート映画みたいのや「ソビエートの友」おんて新聞みたいのや「ソビエート建設」おんて写真のイッパイついた、こんな大きな本よ、——その写真とってもすごいの。口レヤの労働者の暮しとや、いろんなことみんなわかるわ。そんなの沢山みせてね、「こんないい生活できるのんから共産党だって赤だっていっしょやないの。共産党があたしたちの生活によくしてくれるんから、あたしたちつともこわくないし、大賛成だってあのよ。でもあんとき、あたしまけたようで口惜しかったわ。

その野郎、あんた逃げにも見せるわねっ。あんた逃だってきっとごックリしてよ。

皆んふ　えっ見せてよ、ね、いつ見せんの？

きみ　今度の第三日曜はエーと、

芳子　二十二日よ。

進み　あんた、食ふのと休みは惹れないのわ。

芳み　きまってるわ、頭がいくたからね。

皆んふ笑ふ。

きみ　じゃ二十一日の晩いばね、ゆっくりして、あたしの家へくんの、いい？

皆んふ　こういっわ、行ってよ。

きみ　美代ちゃんも連れてらっしゃいよ。

美代　ロレヤでも健康保険あんのっ？

きみ　それはね、社会保険とかってね、政府

せキヤンとかけてくれんのよ。あたし
たちみたい借金から天引あんかされか
いわよ。

道子　まあーいいわねえ

芳子　あっ、おらロレヤへ行きたくおつた
きみ　もつといることがあつてよ

道子　まあ、よいことだわりね、

きみ　いちくいつてたらつさおいわ。
あのね、鷹江さんの赤ん坊、腰わる
くしたとかつて死んだでしよ、あれ二時
頃だつたわね。

芳子　あんお大きお腹らして、生れるぢき
で稽いでよ、んしし生れると十日ばか
りで高い櫛してきて大変あね。あの
時あたし無理じやおいのつて、そういつたか。

美代　そしたらね、んくお我まいつてね
おいつて——仕方おさそうに笑つこえ
わ、それに赤ん坊は三月ばかりで死ん
でしまふしね——あん時の鷹江さん
のしほれかたつたら、丁当に可哀そう
だつたわね、

芳子　本当よ、あたし隣にみとつ、赤ん坊死
でからヨッポドおがい間、あの人の笑
つたの見おかつたわよ。

道子　あっア、あたし赤ん坊おんて生きおい
わ。どうせ言ておおいくだし、病気に
おつてもロクスッポ看病もしおいでよ
——死んでから鷹江さんみたいに泣か
おけりやおらおいおんてさ、やだく

芳子　でも仕方おいわね、お乳はお金に一枚
さりしか飲ませれおいんだし、それに
牛乳かヤミルク買おお金おくておいんだ
し、いやだつたわお、赤ん坊、小
さいくせにこけてよ——鷹さん
あんお貧乏小屋に御嬢に行つたんだも
の。あたし御金持ちでおきや御嬢にゆ
かおいわ。

きみ　あっ、見れおらお源さんどこか、お腹
におつても抱みおいわよ。

芳子　おんぶ笑ふ。

美代　（真面目で）駄目ね、花江さんだつて
駒ちやんだつて金之亦部へ行つたわ。

芳子　芳ちやんまり、美代ちやんの元か利巧
ね

道子　それにしたつて、お乳はお金に一枚
さりしか飲ませれおいんだし、それに
牛乳かヤミルク買おお金おくておいんだ
し、いやだつたわお、赤ん坊、小
さいくせにこけてよ——鷹さん
あんお貧乏小屋に御嬢に行つたんだも
の。あたし御金持ちでおきや御嬢にゆ
かおいわ。

きみ　あっ、見れおらお源さんどこか、お腹
におつても抱みおいわよ。

芳子　おんぶ笑ふ。

美代　（真面目で）駄目ね、花江さんだつて
駒ちやんだつて金之亦部へ行つたわ。

芳子　芳ちやんまり、美代ちやんの元か利巧
ね

道子　それにしたつて、お乳はお金に一枚

芳江　あゝ、あた・白レヤに御嫁にゆきたいわ・そしたらあたし、細工を彦く芳江でやる（笑ふ）

芳子　ふきます

道に（笑ひながら、ぶっきらぼうに）馬鹿ね芳ちやんたら、だまっていらっしやいよ。

芳江　道ばたに土場にはね、チャーンとタクバンが例があってね、赤く坊のあしあの果までみんなが世話をしてくれんの。

芳子　美代ちやんに御乳のまでみんなのの。

芳江　ねえ、お母あさん、三時間に一度づつ、キャン〳〵言兒所へ行ってね、ゆっくり赤ちやんに御乳のまでみんなのの。

芳子　（入る）ホラ出たつ（美代のカタをつかむ。）

芳江　ねえ、お母あさん、三時間に一度づつ、キャン〳〵言兒所へ行ってね、ゆっくり赤ちやんに御乳のまでみんなのの。

芳子　（入る）ホラ出たつ（美代のカタをつかむ。）

美代の叫び声、やみのゆかから「ヒヤーツ」

みくぶの大きな笑ひ声。

――幕――

コルホーズ　兵営農場とは何か？

――ロシヤの百姓のはなし――

誰も知ってるとほり、ロシヤでは一九一七年革命が勃発した。すると、ロシヤは資本家、地主のあらい労働者、農民の口であるということを、しっかり眼をくんで、地主を追っぱらってしまった。だから今ではロシヤには地主なんてものは一匹もあらい。

そして二地は国家の手（労働者・農民の口）で、これを耕やしてある農民にわけられた。

コルホーズ（共産農場）のはなしをする前に、諸君はこの

のこと――すなはち、ロシヤの農民は労働者と結束し、資本家・地主を追っぱらったんだといふ事を、よく覚えておいて下さい。土地は本当に働らいている農民にわけられた。

ソ同盟（ソビエート同盟――ロシヤ――のこと）では今や工業がスバラシク発達してきた。ソ同盟は今では世界第二の工業国にかわった。働らく一億六千万といふ大変な人口数の八割以上が農民であることから見ても、ソ同盟では農業がどんなに重大な問題であるかがわかる。その農業の中でもコルホーズ（共産農場）の問題があるっ

ソ同盟では一九三二年（昨年）までに集団の六割余、耕地面積の七割以上がコルホーズ（共営農場）に加つた。これだけでも共営農場が今ではソ同盟の農業の基礎となつてゐることがわかる。

しかしコルホーズ（集団農場）といふが、それには大体、トズ、アルテリ、コンムーナの三種類がある。

トズ

トズといふのはコルホーズの内でも最も程度の低いものだ。日本ではこれを譯して土地共同耕作組合とよんでゐる人もある。共営農場とはいふものゝ、これには多くは今までの個人経営の非常に原始的な古い所有関係と古い習慣とが、まだ多分に殘つてゐる。

トズでは今まで個人が別々に耕してゐた土地を一所にして、そのうへで農民が自分々々の持ものである農具や牛馬を使つて共同に仕事するにすぎない。収穫は各自の出した土地の面積、ときには牛馬の数、それに各自の労働日数などに從がつてわけられる。

トツではたゞ此の様に、土地を合併するだけで、農具や役畜（牛や馬）は個人々々の私有にあつてゐるから、その利益はたゞ収穫が個人別々で耕作する場合よりも多少増すとか、土地や農具その他のものが利用率を以前よりも多少高くしうるといふ位でトツを造つて良い農具を使ふとか、高級の農業機械を買ひ入れるといふことは、とても出来ないし、できるとしても極く僅かだけに過ぎない。

もつともトツに於ても口数は多少の援助を行つている。例へば種子や肥料の便宜を図るとか、現物を個人単より軽く すうとかである。

メアルテリ

このトズよりも一段進んだものがアルテリである。アルテリではこれに加入した農民の土地、農具、農業用機械、役畜かと互一つにまとめてアルテリの物とするのである。しかしこれと同時にアルテリの加入者は家畜の一部、家禽、住宅などは個人の私有として持つことにかつてゐる。

ソ同盟では最近、農業用トラクターや大仕掛の農業用機械の数が非常な勢で増加してゐる。現在農業に使つてゐるトラクターの数は十万台、自動車が八万台、九万台にも上るといふ勘だ。こういふ辺に農村に供給されるトラクターの数が激増してきたにつれて、アルテリがプルホーズの中で最も重要な地位を占るにいたつた。

といふのはトラクターや大きな機械は個人の資力ではとても買へないうへに、たとひ買つてみても土地が狭くては十分利用することが出来ないからである。しかしこれと同時にアルテリの加入者は家畜の一部の私有だから、此の場合役に立たない。そこでどうしてもこういふトラクターや機械を利用しようと思へば、農民が集まつてアルテリを作らうといふことにかる。

こうして工場から農村に送られるトラクターや農業機械が一台でも増せば増すだけ、

ムれだけアルテリの勢力は増加しこれがコルホーズの水かで最も普通の形とホった訳だ。悪するに軍事の機械化に伴って自然にアルテリが増したのであるから、よく事情の知らふ人間が、ロシヤの農民は強制的にコルホーズに引き入れられてゐるが、どんふに生活目であるかほ直ぐわかるっこれかレ政府としては、トズよりもアルテリの方が進歩したものであり重業をよふこし、農民の生活をより一層引きあげるものだからアルテリの方を奨励レ、これに対レドズ以上いろくな特典を与へてゐる。

それではアルテリ内の色んな事柄はどうして決定するかといふと、それは加入者がみんな集って会議レ、物事をきめる。総会といふものがあって、重要のアルテリにもめって、これがアルテリの最高執行機関とホってゐる。だからアルテリのことは加入者がみんで相談でやってゆく訳である。（管理委員の事はまた同じ）

だがアルテルによっては一つで二百五千もの人が加入レ世帯が分散されてゐるものがある。こういふアルテリでは一寸総会は開けないから各自が代表を選出レ、その会議で七人乃至一九人の管理委員を選出する。此の管理委員がアルテリの日常の事務をやってゆくのである。ではこのコルホーズハアルテリ」にはいすると、どんふいいことがあるか？これをハッキリ知るために此所に二人のコルホーズ農民の話レをかゞげよう。

コルホーズでの私のくらし

一八九三年に生れたんだけど随分との人間らしい生活は彼にトークズミンヘフに割れた人ですが、私の父といふのは可愛そうな人で、年中あくせくと働く稼ぎ人であった。そのため私だって鎖すっぽ村の小学校へも行へうことが出来ずくて——バオのときから難しい思ひで仂かねばならなかった。軍隊に入るまでといふものは私は農場の日傭ひをやってありまレた。……」

「一九一八年（ロシヤ十月革命の翌年）には、赤軍に参加して多くの戦線で白衛軍や干渉者共と戦ひました。この赤軍内での体験が、私にとって最もよい学校での教育のように役立って呉れたんです。軍隊で私は階級斗争の本当の内容を学びました。……

「ここに外乱も割合反革命の攻撃が打破られて統

「テリ」にはいすると、どんふいいことがあるか？これをハッキリ知るために此所に二人のコルホーズ農民の話レをかゞげよう。

コルホーズでの私のくらし

一八九三年に生れたんだけど随分との人間らしい生活は彼にトークズミンヘフに割れた人ですが、私の父といふのは可愛そうな人で、年中あくせくと働く稼ぎ人であった。そのため私だって鎖すっぽ村の小学校へも行へうことが出来ずくて——バオのときから難しい思ひで仂かねばならなかった。軍隊に入るまでといふものは私は農場の日傭ひをやってありまレた。……」

「一九一八年（ロシヤ十月革命の翌年）には、赤軍に参加して多くの戦線で白衛軍や干渉者共と戦ひました。この赤軍内での体験が、私にとって最もよい学校での教育のように役立って呉れたんです。軍隊で私は階級斗争の本当の内容を学びました。……

「ここに外乱も割合反革命の攻撃が打破られて統

ムれだけアルテリの勢力は増加しこれがコルホーズの水かで最も普通の形とホった訳だ。悪するに軍事の機械化に伴って自然にアルテリが増したのであるから、よく事情の知らふ人間が、ロシヤの農民は強制的にコルホーズに引き入れられてゐるが、どんふに生活目であるかほ直ぐわかるっこれかレ政府としては、トズよりもアルテリの方が進歩したものであり重業をよふこし、農民の生活をより一層引きあげるものだからアルテリの方を奨励レ、これに対レドズ以上いろくな特典を与へてゐる。

それではアルテリ内の色んな事柄はどうして決定するかといふと、それは加入者がみんな集って会議レ、物事をきめる。総会といふものがあって、重要のアルテリにもめって、これがアルテリの最高執行機関とホってゐる。だからアルテリのことは加入者がみんで相談でやってゆく訳である。（管理委員の事はまた同じ）

だがアルテルによっては一つで二百五千もの人が加入レ世帯が分散されてゐるものがある。こういふアルテリでは一寸総会は開けないから各自が代表を選出レ、その会議で七人乃至一九人の管理委員を選出する。此の管理委員がアルテリの日常の事務をやってゆくのである。ではこのコルホーズハアルテリ」にはいすると、どんふいいことがあるか？これをハッキリ知るために此所に二人のコルホーズ農民の話レをかゞげよう。

ロシヤの労働者・農民の生活がはっきりわかるぞ！

入ルソビエト友の会へ!!

「りとぶったので私も生れ故郷の田舎（騙って
きました。村で私は自分の家畜を並べらうと
思ったんです。父は一匹の馬を私にくれた
ですが、私はそれを小さい家を買ふために
売ってしまったんです。働き盛りもかく家族
の者の暖をとるための薪を買ふ金もかかった
ので到頭そのために家までぶち壊さねばならな
かったんです。」

「一九二九年（第一次五ヶ年計画の第一年）
には、私もどうやら牡牛一匹と馬一匹とを
買ふことが出来たんです。お入人の家族の口
はどうにかこうにか三百々々の飯に充分あり
つく程にはかつてみかったのです。私は勤
勉というから夜遅くまで一日中働きましたが
生活はうまくゆかなかったのでした。

「ここ、さつき今申したことが一九三一年までの
——つまり私がコルホーズを作るまでの私
たちの生活の有さまなんです。コルホーズを
作って見ますと直ぐに、コルホーズこそが私
たち農夫を解放して呉れるたった一つの道で
あることを、ピンと頭に感じました。
「私が生れたのは、先刻もいった通り一八九
三年なんですが、実際のところ私の真実の生
活が始ったのは、このコルホーズに加入して
してからと言っていいくらいです。
ところで一九三二年の私の収入と一九三三
年の私の収入を比べてみると、この間にどん
な変化が起たか——コルホーズがどんなに私
たちの利益になってくれるものかが、はっき
りすると思います。」

「一九二九年には、私は一四〇ルーブル（五〇
弗）の穀物を刈いれましたが、そのうち
四十ルーブルは政府の方へ納めねばならず、も
う四〇ルーブルは種としてとって置かねばなら
なかった。で手許に残って実際私達が使った
のはたった六〇ルーブルばかりだったのです。
言ひかへればこの六〇ルーブルが八人の私の家
族を養ふて、家畜を飼ふためにあてられたの
です。その他に私はお金で一五〇ルーブル（一
五〇円）ばかり借けましたがこのことに関そ
ふ風で私たちはいつも裸足で、ボロのような
着物を着ておたんです。」

「ミミルが一九三二年にはコルホーズで初い
た代償として私は二〇〇ルーブルの穀物と現金
で二〇〇ルーブル（二千円）を手にしました。
私はもう種のことも政府へ提供する穀物の
ことを心配する必要はなくなって余りました。
この二つのことを計り換へて見れば、穀物の実では一
九二九年に私たちの家族五人でたよりも、猫
んど四倍近く、又現金での儲けはてんで問題に
からぬ程多く、この一九三二年に私たちが得た
ことにあるのです。私たちはいま牡牛一匹、馬
一匹、山羊三匹、それに沢山の鶏を持ってみま
す。又、私の家族の着は充分、食物をとってゐ
ますし、着もあれば着物も立派です。
「私は一生コルホーズのために盡したいと思ひ
ますこれこそ私達を解放してくれるたった一
つの途なのです。私たちの通やクラーク（富農）
の代理人夫が私達をこの途からそらそうとして
どんな策動やサボタージをしようとも私たちは決し

て許しません。私は人間らしい生活をしたい
の私は食事と仲間とバコルホーズにだけ生活
歩きまわるような生活を送りたい。しかし私はこれ
からも続く革命の成功のために努力しませ
う。私は死ぬまで熱心なコルホーズ農民です
！」

傍にいた、この話の主人公クズネツォフ
も、コルホーズの幹部員大会にやってきた
五百人の代表の中の一人に過ぎない。彼等の
みんなが同じように苦しみ、斗争、成功の話
しを持っている。彼等は同じようにツアーの
下で生活の困難に曝されて来たのだ。彼らは
みんな内乱という学校を卒業してきた。ちっぽ
けな農場のオコボルがどんなものかを知って
いる。

次は有名なドニエプロストロイ附近の「十月
」コルホーズ農民トウルスコの話し。
「革命がおこるまでは、私はヤトコ農場で
農業労働者として八才の時から働いてきた。私が
十七のとき、あの革命が起った人ですが、それ
と共にこの農場での私の仕事は終った人です。
それから後、一九二八年までは小さな自作農と
して一〇エーカ（四段三四坪）を
持ってきたが、家族は十二人居と牛が一匹
みて、年に一七〇ルーブル（一七〇
円位三〇コ円）の収入がありました。併しこ
れは家族の者に学ばして「馬鈴薯」と「パン」
出かれる仕事、時もおけば、パンにつけるバ
タぐらんが全然手に入らなかったのです」

「私はコルホーズに加入したのは一九二九年の
のことです。実際コルホーズでの生活は昔と
比べものにかりません。一九三一年には私
私とで四〇ルーブル（四〇円）を稼ぎ
した。ここが今年（一九三二年）は二人で一
六〇ルーブル（一七〇円）に殖えた次のです
私たちは一年中たっぷり肉鶏卵やバンにも
つけたし、野菜類も自分達の菜園から豊富に
手にいります。一匹の豚と四匹の牡牛を持
てゐます。八つになる私の子供は小学校に行
ってゐるし、三才になる女の子は托児所に
うく面倒見てもらってゐる。私は短靴や長
靴や上着や三つ揃の洋服も持ってゐるし、
らくて暖かいジャケツも持ってゐます。
コルホーズの収入もホニ三〇円位になります。
日十三時間も十四時間も働いて、家へ

ドウダエフ曲科の話者・スバラしいじゃないか
クズミンヘウは一年間に、現金で二千円と
穀物二〇〇プード稼いだと言ってゐるし、トウ
ルスコは一五〇〇円稼いだ外に馬鈴薯やパン
や野菜には一年中タップりありつぼだとまつ
てゐます。おまけにコルホーズの収入もホニ三
てゐます。牛や馬や山羊はもつてゐる
うく面倒見てもらってゐる。私は短靴や長
靴や上着や三つ揃の洋服も持ってゐるし、
らくて暖かいジャケツも持ってゐます。
コルホーズの収入もホニ三〇円位になります。
日十三時間も十四時間も働いて、家へ

ソヴィエト同盟 コルレ！

ロシヤ コルレ！

万国の労働者団結せよ

世界の

プルジョア・地主は

労働者・農民の国

ソヴェート・ロシヤを

打ちつぶそうと！

してるる!!

ばかりでなく あなだこれだと 傷つけねばならないのだ。

ふいのではない。一日八時間かそこら働けば

いいのだ。

何故そうなのだろう？それは先づ、労農ロシヤが

ら一年の収穫の半分以上を まき上げる地主が

あるいため、都会には労農の作ったものをウン

と安く買い、食べものはウンと高く売りつけ

る資本家がおるからだ。高利貸や銀行会社

やそんなものもある。だから労農ロシヤ

働いて得たもの全部をまき上げるものが一匹もお

らないのだ。それだから労農ロシヤの労農は、日本の労

民よりもウンと生活が楽なのだ。

そんなから、みんな仲間でそしてトラクター

やその他いろんな科学で仕事をするよう

うにかったのだ。今まで一週間もかゝってやっ

た仕事が今日位でやれるのだ。それに工場に於

師をやとって来て、それと実習で地質や肥料や

種子やいろんな研究をやって、ドレく改良す

るので収穫はおそろしく増えた。いくら収穫が

ふえても、ロシヤでは資本主義の国とちがって、

生産機関がんかがふえるだけ

だ。だから労農ロシヤの労農は楽に働いてスバラシ

クよい生活が出来るのだ。

それに、失業や、病気や、老後の心

配がないのは、労働者と同じだっ

満洲・日本やその他の資本主義国の労農にくら

べて社会主義のロシヤは何といふスバラしいこ

とではないか？

勞働者農民の
祖國ソヴエート・ロシヤを守れ！

一万圓の勞働者、農民は腕を組んで

みふさんとみふさんはソヴエトロシヤの勞働者、農民がどんなに倫快に幸福に働きそしてくらしてゐるか、ということは大体わかつたでしやう。

ところがソヴエート同盟では第一次五ヶ年計劃によつて、やつと社會主義社會の建設の基礎が——骨組ができあがつたばかりのそれて今第一次五ヶ年計劃の成功によつてバラしくなほ高く向上し大勞働者、農民は希望の上にも希望を持つて第二次五ヶ年計劃に向つて突き進んでゐます。

そしてこの第二次五ヶ年計劃の遂行された暁にはソヴエート同盟では、あらゆる産業部門において、世界の全資本主義國五ヵ國を合せたよりもモツト〳〵何倍もよく出來るのです。

× × ×

全世界の勞働者、農民はソヴエート同盟の此の輝かしい社會主義建設の為めたゝかひを驚きと喜びの目をもつて見てゐます。

——偉大だつて資本家、地主を追つ払らつてしまへばロシヤの兄弟達のように幸福にふれるんだ——と思つてゐるのです。

"ソヴエートロシヤは世界の勞働者、農民の進む可き途を照す大きな燈でもつと世界の勞働者、農民の胸に限りない希望と力を湧たせます。世界の勞働者、農民は資本家、地主のドン底の搾取と壓迫の中から、ソヴエート同盟に倣つてきあがつてゐます。

すみはてゝ世界の勞働者、農民は飽迄（資本家、地主の築いた國境をふみこえてへガツレリと龍を組み、世界の隅々に至るまで資本家、地主をたゝきつぶし、社會主義社會——勞働者、農民が倫快に幸福にくらせる社會を造らうとしてゐるのです。

二、農業經營、地主もおてゐまつふが

ソヴエートロシヤの社會主義建設の偉業ならばらしい躍進をみてゐるのは世界の勞働者、農民だ川ではない。世界の資本家、地主共も、遂む可き途を照す大きな燈でもつと世界の勞働者、農民の胸に限りない希望と力を湧たせます。世界の勞働者、農民は資本家、地主のドン底の搾取と壓迫の中から、ソヴエート同盟に倣つてきあがつてゐます。

すみはてゝ世界の勞働者、農民は飽迄（資本家、地主の築いた國境をふみこえてへガツレリと龍を組み、世界の隅々に至るまで資本家、地主をたゝきつぶし、社會主義社會——勞働者、農民が倫快に幸福にくらせる社會を造らうとしてゐるのです。

二、農業經營、地主もおてゐまつふが

ソヴエートロシヤの社會主義建設の偉業ならばらしい躍進をみてゐるのは世界の勞働者、農民が世界が陽々から、ソヴエート同盟に向つて手をさしのべて」おり「偉業も資本家、地主

ホ、は嘘にも言つた通り「世界の勞働者、農民が世界が陽々から、ソヴエート同盟に向つて手をさしのべて」おり「偉業も資本家、地主

何故世界の勞支（ブルヂヨア、地主）はこんな風ふのか？

ホ、は嘘にも言つた通り「世界の勞働者、農民が世界が陽々から、ソヴエート同盟に向つて手をさしのべて」おり「偉業も資本家、地主

ホ事件を——

何故世界の勞支（ブルヂヨア、地主）はこんな風ふのか？

ホ、は嘘にも言つた通り「世界の勞働者、農民が世界が陽々から、ソヴエート同盟に向つて手をさしのべて」おり「偉業も資本家、地主

12

立たっきっぷし、ロシヤの兄弟達のように愉
快に幸福にくらしてゆける社会をつくろうと
思い、世界の隅々から「国境」をふみこえて労働
者、農民が敵対（ブルがヨコヤ、地主）を
倒すための斗争を益々はげしく管を起こしてみ
るのだ。

こいつはブルデヨア（資本家）地主どもにとっては全くもって恐ろしい事だ。いつロシヤみたいに革命がおきて、労働者、農民のために自分の工場や田やその他の財産をとられ
てあぶなくなるのだから。

それだから腹黒は日ロシヤの社会主義運動がどんどん成功してゆくのがこわいっ口
労働者、農民の斗争がドン〳〵よくなるのが、自分のくびにかかわりがあるのだっそれで

13

日本の腹黒（ブルヂヨア・地主）は満州を足
掛にして、勢力を、農民の同、ソヴエート、
ロシヤをたおそうとしてみるのです。
たらきっぷりたための戦争をはじめようと
みるのです。

だから満鉄破壊を口実におこった満州の戦
火は北へ北へと延びつづけて、三年たった今
日ではロシヤの口境附近まで行ってみるのです。

だからみなさん、日本は支那と侵略戦争を
んでるが、その尻から武器、弾薬、
えてまでレ〳〵北満へ送りこんでみるのです。
「俺達もロシヤの兄弟達のようにしあわせ
てみる口をしと思つ
何のためでしょう。
それは長い間の斗争で安全に満州みたいに自分のもの

世界の腹黒は、何かえさがめつたらソヴエー
と同盟をたたきつぶしてやろう、滅ぼしたかつ
たら噂をフツカケて、やつつけてやろうとネラツてみるのです。

世界の腹黒はこうして世界にたつた一つの社会主義口家――ブルデヨア（資本家）地主のみにくい口、労働者、農民が幸福にくらしている口＝ソヴエートロシヤをたたきつぶす仕事のために、一致共同らやつとしてみるのです。

三、日本の腹は、世界の腹黒の先頭にたつてロシヤを攻撃しつつある。

ところで日本の腹黒は自分の腹を肥すために戦争をはじめて、満州をとつてしまつたことは、我々がしつてみます。――だがそれだけではないのです。

64

らそウンと儲けようとしてゐるのです。

それに日本の脳髄は、満州や太平洋を中心とする利害関係の対立がのために、米国の脳髄と早晩戦争をはじめなければならない状態にあるのです。ところで日本の脳髄は日米戦争がはじまりそうであればある程、それだけロシヤと戦争しなければならないのです。

何故かといふと、ロシヤとの戦争で勝つて（脳髄が勝つつもりであるから、）我もいま便宜上そういふ風に話しを進めるよう）ロシヤにある無限の資源――鉄、石炭、石油、食料等を自分のものにすればどこと互相手に戦つても恐ろしいことはない。米国おにもの也、世界中たゞ

×　×　×

日本の脳髄が満州者い豊富の「ソヴエートロシヤに噴噂をフッカけ、戦争をおつてブッツブスつもりだといふ事の証拠は一つ此所にあげやう。

みかさんは毎日々々新聞にでてくる東支鉄道問題（日本の脳髄は北満鉄道と呼んでみるが、みそ）くは日本のものである南満鉄道と関連はせるコンタンらしい）を何と見てゐますか？

今度支鉄道譲渡のために満州代表とソヴエート代表が日本で交渉してゐます。そして日本は商談の誠意ある事を世界人者としてそれに参加してゐます。

ふつて向つてこい。世界中を日本の領地にし、世界中を自分が儲けるための植民地にしてやる。ミミミと日本の脳髄はそう考へてゐるのです。

×　×　×

65

その商談に於て満州門でいふには一事支鉄道はとかく紛争の種にあるから、経営を困難だし当くおつて、いつこうに価値のないものだけれども今後の平和のために五千万円で買つてやるしのだそうです。だが事実はあのボロ大ボロ東支鉄道の価値は五千万円おんてそんな安いものではないのです。ところがどうでもソヴエートが正当な鉄道の価格を要求してゐるのに対して満州国では「自分の事ぶ通りの値段で譲らなければ、断然武力手段に訴へる」と言つてあるのです。そして これに対して日本の政府の連中（ブルヂヨア、地主の手先さ）は喜ぶオヤザヴアートとしての置位からロシヤ側に対して「ロシヤで満州国のいふ事を聞かないからば、満州国のいふ通りに鉄道を売るように話をしかいからば、いつまでたつても問題は解決をあいばかりか重大すべき結果にあるだろうだから満州国の言ふことを聞いた方が急にあるだろうレといつてみますそして満州国に対しては一ロも譲歩しろのもちろん任務をあげろのとは決していつてありません。

×　×　×

ところが、それ〳〵満州国や日本でいつてゐるところの物資、経営の困難は如何にして起きたのか？

それは満州国が鉄道経営に従事してゐる満州人らについて妨害させたり、自係露人をつかいて妨害させたのだ。それで足りかくて俘虜を解雇したり、鉄道の線路をレや断

して事実上経営を不能ならしめ、物資を引き
揚げてしまうのです。そして「東支鉄道はとか
く紛争の種にもるから、撤廃同然五千万円で
他の東支鉄道を略奪する必要があるのでしょう
か。それは北の鉄道がソヴエート・ロシヤと戦争を
するにはあくまであらねばならぬからです。東支
鉄道にたよる外には日の北満のソヴエートの国
境近くまで武器、弾薬、兵士を送る事は絶対に
出来ないからです。

檀皐にも日本の資本家、地主は北満侵略、匪賊
討伐に東支鉄道を無断拝借してみつたが（匪賊討
伐は北満侵略の口実であり、北満侵略はソヴエー
トと、戦争をはじめる準備である）自分のもので
いとやつぱりどうもウマクゆかないのそれで多数
のようか所置を日本のブルヂヨア地主はとつたの
です。そしてタレロレヤが五千万円で鉄道を返さ

はといつたレ、そのイザコザを利用して、
ロレヤと戦争をつぱじめようという腹だ
です。

× × ×

こうして日本のブルヂヨア地主は、労働者
農民の口、ソヴエートロシヤをたゝきつぶす
戦争の準備を着々と進めてるるのです。
彼らはソヴエートロレヤが、ソヴエートロ
レヤの労働者、農民が世界の全資本家、地
主の敵であるからです。
日本の労働者、農民にどんなに大きな力と希望を与
へてるるかを知つてるます。労働者・農民の
進むべき道、どんなにハツキリ示レるるか
を知つてるます。そして又、世界の資本家・地
主に、どんなに大きな恐怖を与へてるるか

といふことをハツキリと知つてるます。

× × ×

こうレた風に話レがハツキリレた場合、諸
君労働者農民はどうすべきでありませうか？
日本の腐英の北満侵略の戦争は、唯労働者・農
民をドタンの苦しみに突き落レて腐英が儲け
るためだといふばかりでなしに、労働者農民
の口をタタキつぶす戦争の足場をつくるのだ
といふ事を知つた私達労働者・農民はどうす

ばよいのでしょう。こういふ戦争に対して私は労働者・農民がどうしかければからぬかと

いふことについては御に詳細くのべます。

中国の労働者農民は日本の資本家地主の満蒙侵略に絶対反対してゐる

みふさん！みふさんは朝鮮の労働者農民がどんなにひどい生活をしてゐるか知つてゐますか？それはもう御話しをかにもありません。朝鮮の農民は内地の農民の何倍も税金や小作料内地の沢々労働者・農民よりモット何倍もひどいのです。

日本の資本家地主は朝鮮を自分のものにして朝鮮の労働者農民を猛烈に搾つて儲うけてゐます。朝鮮の労働者は内地の労働者（一日七十銭位の賃金で十二時間も十三時間も働かされてゐる——人の労働者は同じように働いて一日三十銭か四十銭だ）よりもモット二十銭も、それ以上も安い賃金で十五時間も十六時間も働かされて日本の豚芰にこきつかわれてゐます。朝鮮の農民は内地の農民の何倍も税金や小作料をとられます。二番米のボロ〳〵したべられません。その上にまた日本の豚芰はそんな風に搾つてる労働者・農民に高い品物を買りつけて又儲けるのです。

こういふ事が朝鮮みたいな植民地と言ひます。いま日本の豚芰は満蒙を侵略し、殖民地にして、支那の労働者農民を、朝鮮の労働者農民と同じように搾るように搾つてウント儲けようといふのです。だから支那には日本の満蒙侵略に絶対反対してゐます。満州口にも反対してゐます。（満州口といふのは満州の労働者農民を搾るための日本の資本家地主の道具なのですから）

ことに中口（支那）の労働者・農民は軍閥政府（張作林みたいな奴）の重税や地主芰の人非人の搾取にたまりかねて、革命を起してゐます。そして政府の役人や地主や資本家を打ち倒し、都会から追ひ出して労働者農民の政府を造りました。ソヴエート政府といふのは労働者農民が革命を起して造つた自分自身の政府——ソヴエート政府です。そしてこの中口ソヴエートの労働者農民は自分達で軍隊（赤衛軍）を造り、口民党の軍隊と斗ひ、口民党が反動的であり、従つて資本家地主のゐる街や村に攻めて行つて労働者農民の政府を造りました。ソヴエート政府といふのは労働者農民の政府のことで、ソヴエートロシヤの様な口主や資本家や地主の奴を追払つて、土地をみんな分け、借金の取消をやり、政府のかけた税金の全部を労働者農民からとりのぞいてやり、その外は徹底的に労働者農民の為めの政治をやつてゐるのです。これを中口ソヴエートといつて、此の中口ソヴエートは今では満州、蒙古はおろか、北支南支——支那一部にわたつて名乗てきてゐるのです。

だから支那には今二つの政府があるのです。一つは農民や労働者をウント搾り、おまけの果に列口のブルヂヨア地主の煽動もうけてゐる口民党政府といま一つは労働者農民が革命を起して造つた自分自身の政府——ソヴエート政府です。そしてこの中口ソヴエートの労働者農民は自分達で軍隊（赤衛軍）を造り、口民党の軍隊と斗ひ、口民党が反動的であり、従つて資本家地主のゐる街や村に攻めて行つて労働者農民の政府を造りました。ソヴエート政府といふのは労働者農民の政府のことで、ソヴエートロシヤの様な口主や資本家や地主の奴を追払つて、土地をみんな分け、借金の取消をやり、政府のかけた税金の全部を労働者農民からとりのぞいてやり、その外は徹底的に労働者農民の為めの政治をやつてゐるのです。これを中口ソヴエートといつて、此の中口ソヴエートは今では満州、蒙古はおろか、北支南支——支那一部にわたつて名乗てきてゐるのです。

だから支那には今二つの政府があるのです。一つは農民や労働者をウント搾り、おまけの果に列口のブルヂヨア地主の煽動もうけてゐる口民党政府といま一つは労働者農民が革命を起して造つた自分自身の政府——

日本の労働者農民は
日本の資本家地主のやる戦争に対してどうすべきか？

第一に先づ私々は戦争といふものは資本家地主が儲けるためにやるものであると言ふことを知りました。その次に戦争の費用をツカがぜられてひどい目に合ふのは労働者農民、その他の総べての働く階級であるといふ事が分りました。第三に、戦争にひっぱりさされて鉄弾にかゝるのも労働者農民であるのがわかりました。

だが日本のブルヂヨア（資本家）地主は後に労働者農民の口ソヴエート口レヤをたゝきつぶす準備の戦争であったのです。

こういふ戦争に対して私々労働者農民はどうしかければよからいでしょうか？

× × ×

先づ平和私たち労働者農民をウンヽヽ搾つて苦しめてゐるブルヂヨア地主が儲けるための戦争に出て鉄弾にかゝらければよからいと言ふことと、戦争の費用をすつかり負担しかければよからいといふことは、皆もつて無論化たことです。此のことがハッキリしたら、労働者農民である私々労働者農民を搾り苦しめるものであり、最

ルヂヨア地主が、中口ソヴエートをたゝきつぶし、労働者農民をウンと搾つて儲けようとしてゐるのに対して、反帝の労働者農民が命がけで反対してゐるのを銃剣と機銃でみにじつてゐるのです。（先だつ迚へた様な鉄道は此の「匪賊討伐」のためにもかゝつてからいものなのです）

悪賊だかんて泥棒を仂いて哀民る苦シめでもするようか訳しだが、実はその匪賊と呼んでるのが哀民自身なのであつて、日本の資本家地主が満州を強奪し哀民をウンと搾つて（これこそ正真正銘の泥棒です。強盗です）儲けようとしてゐるのに生命がけで反対してゐるのです。中口の労働農民は日本の資本家地主の泥棒に生命がけで反対してゐる。

ところが日本のブルヂヨア地主はこんな貧農地主があれからいソヴエートおどといふのがあつては、満州の労働者農民を恩ふまゝに搾つて存分にウマイ汁を吸ふわけに行かない。それに中口ソヴエートの労働者農民は勝を持つてゐる日本の満蒙から、ガツシリと根を張つてゐる中口ソヴエートの勢力をたゝき出さからくてはからいのだ。みふさんは新聞でヤれ今度は「匪賊討伐」だと書き立てゝゐるのを見られるでしやう。実はあれは、日本のブルヂヨア地主が、中口ソヴエートをたゝきつぶし、労働者農民をウンと搾つて儲けようとしてゐるのに対して、反帝の労働者農民が命がけで反対してゐるのを銃剣と機銃でみにじつてゐるのです。（先だつ迚へた様な鉄道は此の「匪賊討伐」のためにもかゝつてからいものなのです）

悪賊だかんて泥棒を仂いて哀民る苦シめでもするようか訳しだが、実はその匪賊と呼んでるのが哀民自身なのであつて、日本の資本家地主が満州を強奪し哀民をウンと搾つて（これこそ正真正銘の泥棒です。強盗です）儲けようとしてゐるのに生命がけで反対してゐるのです。中口の労働農民は日本の資本家地主の泥棒に生命がけで反対してゐる。

それから島さんはカールマルクスの有名な言葉を知つてゐますか？

×　×　×

（プロレタリアート（労働者）団結せよ！失ふものは鉄鎖のほかにない）

此の言葉は難かいものですけれど、非常に深い大きな意味を持つてゐるのです。その意味はこうです。

労働者農民はみんな仲間だ、兄弟だといふのです。鶏かんが知らうが知るまいが、人種が同じだらうがちがはうが労働者である限りは、みんな兄弟だといふのです。

だからマルクスの言つた「プロレタリア団結せよ」といふことは、世界の労働者農民の敵は資本家地主だ。だから世界の労働者農民は皆同じ力を合せて世界中の資本家地主と斗へといふことなのです。

×　×　×

私達労働者農民は、どこの国の労働者農民であらうが、みんなレツカリと仲よく団結しなければならないことが分つたと思ふ。

ところが今日本の資本家地主は、どんなやうとしてゐるか？

天皇の革命――労働者農民の政府を打ち

こつぶし、支那の労働者農民をウント搾つて儲けるための、戦争をやつてゐる。こういふ支那の仲間――労働者農民――兄弟を苦しめるために、一番先に戦争に狂々の労働者農民がひつぱり出されて、支那の兄弟と殺し合ひをやらせられるのだ。これは考へても恐ろしい話しではありませんか。味方同志、仲間同志が――。日本の資本家地主の満蒙侵略に反対し、日本の資本家地主と戦ひ、真実に自分達の幸福にしてくれる中国ソヴエート支那の労働者農民に団結しなければならないことが分つた。

ところが今日本の資本家地主は、どんなやうとしてゐるか？

天皇の革命――労働者農民の政府を打ち

うレろといふからだ。

日本の資本家地主は、我々労働者勤民にそれだけをやらせようといふのではない。労働者勤民の口ソヴエートロシヤとの戦争にも（日本のブルヂヨア地主は此所一年のうちに少ずロシヤと戦争をはじめる）出ろといふのだ。そしたら我々日本の労働者勤民は世界の兄弟（労働者勤民）達に進む可き道を教へ、大きな力と希望を与へ、世界の資本家地主の憎みを恐れてゐるソヴエートロシヤぶつつぶしの戦争に出て、ロシヤの兄弟に銃剣を向けなければならない。

×　×　×

こんな戦争に我々労働者勤民は絶対に反対だ。だがブルヂヨア地主は我々から戦争の費用を搾りあげ、我々を戦争にひつぱり出します。我々の家からの大事の働き手を奪ひます。愛する夫を息子を親を兄弟を奪ひます。

我々労働者勤民はこれに対して長いものにはまかれろでどうにもならないのでしょうか？そんなことはありません。断ずてありません。日本の総人口の八分通りが労働者勤民です。みんなが心を合せ団結するならば、我々の力は非常に大きいのです。何物をも恐れる必要はないのです。我々日本の全労働者勤民が団結して

戦争に反対するならば、我々は日本の資本家地主をして止むを得ず戦争をやめさせることが出来ます。戦争の最大の障害者は労働者勤民です。日本の兵隊の殆んど全部は労働者勤民です。この労働者勤民に反対されて、日本のブルヂヨア地主は戦争をやることが出来るでしょうか？断じて出来ません。

みなさん。我々の力は大きいのです。労働者勤民こそが真の平和を造り出すものなのです。我々は資本家地主の儲けるための戦争（こういう戦争を帝国主義戦争といいます。）をやめさせることが出来ます。こうして、戦争をやめさせる（戦争に反対して）ことに依て中国（支那）の兄弟や、ロシヤの兄弟と殺し合をしないでよくなるのであり、労働者勤民の口ソヴエートロシヤを、中国ソヴエートを（中国革命ともいひます）を日本の資本家地主の砲火から守ることが出来るのです。

戦争に反対し、戦争をやめさせることは単に我々日本の労働者勤民が、我々自身の戦争の被害からまぬかれるためばかりではないのです。中国（支那）の兄弟を日ロシヤの兄弟をも守ることなのです。我々日本の労働者勤民の責任はきはめて重大です。

労働者勤民は
帝国主義戦争絶対反対だ！
ソヴエートロシヤを守れ！
中国ソヴエートを守れ！
では戦争をやめさせ、ソヴエートロシヤや中

D320850

ロシヤ
をめぐる我々は村さんだけ
の中ではなく工場の中で街でどういう
ふうに自分をもっていくか
ということが大切だと思います。日本だけ
でなく世界の労働者が
ソビエトロシヤを
守ってくれ。
ソビエトロシヤを
守ってくれ。
ソビエトロシヤを
守ってくれ。
ソビエトロシヤを
守ってくれ。